第二回 道徳科学研究フォーラムを開催

新たな時代の道徳をめぐってさまざまな視点から議論

道徳科学研究センター

道徳科学研究フォーラムは、一月二十三日と二十四日の両日、新型コロナウイルス感染症防止の観点からオンラインでの開催とし、全国各地から百九十五名が参加しました。

◆具体的なテーマから「新たな時代の道徳」を探求

道徳科学研究センター（以下、道科研）では、昨年度に引き続き、共通テーマ「新たな時代の道徳を共に創る」をめぐって、それぞれの専門分野から研究を進めてきました。その成果をもとに、「講演」「ミニシンポジウム」「個人発表」の構成でフォーラムを開催しました。

特に、ミニシンポジウム「最高道徳の学び方」「ムハンマドを含めた聖人研究の展望」は、これまでのフォーラムでは扱ってこなかった新たなテーマで、そこでなされた議論は、モラロジーを学ぶ際にきわめて示唆的であったと思います。

◆「新たな時代」の脅威と対処法としての道徳

閉会挨拶において、犬飼孝夫センター長は「新たな現実に対応すべく、学び続けるとともに守るべきことを守りながら進化・発展していかなければならない」とし、それを阻む要因（脅威）として「COVID-19（新型コロナウイルス）」「米中対立」「気候変動」を挙げました。

まず「COVID-19」、グローバルな時代において今回と同等またはより深刻な感染症が繰り返されるのではないかとの懸念があり、より万全な対策が求められます。次に、「米中対立」が今後も続くことが予想されており、米国のような分断社会の状況を見ると、米国と中国の狭間にある日本の立ち位置、すなわち日本の国家としての自立、あり方の根幹が問われていると思います。最後に、地球温暖化などの「気候変動」を今以上に自分事と捉えてライフスタイルを見直していくことが求められています。

このような脅威と立ち向かい、変化の時代に生きるために私たちに必要なのが「Compassion」、すなわち他者の痛みや苦しみを共感し、寄り添っていく「おもいやり（道徳心）」ではないかと思います。馴染みのある言葉では「慈悲」「慈愛の心」がそれに当たります。今後大きな変化が進むにつれ、モラロジーを学び、実践されているモラロジアンの進化（深化）も同様に求められることを意味していると思います。

◆今後のフォーラム開催について

フォーラムのアンケートでは、参加者からたくさんの意見が寄せられました。

アンケートの結果のうち、満足度については、今回新たに導入したオンライン開催方式によって、より多くの参加者とともに考え、議論する場が広がったことを実感しました。今後も対面に加え、オンライン開催を希望する意見もある一方で、オンライン開催に関する建設的な意見も多く寄せられました。特に、ウェビナーへの接続方法や音声の不具合に関するサポートは、今後の開催における重要課題として改善を重ね、安心して参加していただける環境整備を整えてまいりたいと思います。

今後、フォーラムで取り組んでほしい内容についての回答結果からは、「家庭・国家のあり方」「最高道徳の学びや実行」「ＡＩ（人工知能）」「皇室」「歴史問題」などに高い関心が示されていることが分かりました（図参照）。これらの回答は今後の道科研における研究・教育活動で積極的に活用していきます。

最後に、フォーラム開催中にいただいた質問やコメントなどは、フォーラムだけでなく、道科研の研究・教育活動を通じて活用し、その成果をブックレット（小冊子）やウェブなどで発信していく予定です。

このように、道科研では、新たな時代に即し、研究・教育のさらなる発展に向けたさまざまな取り組みを精力的に推進していきます。

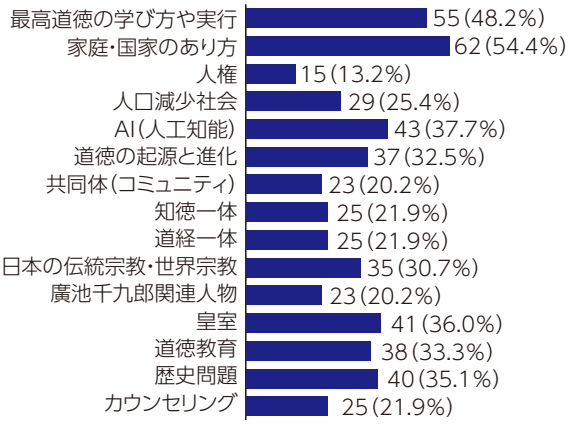

図　アンケート「今後取り組んでほしいテーマ」結果（複数回答）